

新「平安丸」による桁曳網調査

当センターでは、底曳網漁業の重要種であるズワイガニの資源状況を調べるために、毎年 5～6 月に桁曳網による調査を行っています。今回は、本年 1 月に竣工した 4 代目の海洋調査船「平安丸」での初めての桁曳網調査となり、従来と同様に府沖合の底曳網漁場である水深 120～320 m 域で計 6 航海、24 回の操業を行いました。

調査では甲幅 50 mm および 65 mm 前後の第 9 齢(底生生活をはじめて 8 回脱皮したもの)および第 10 齢(同 9 回脱皮したもの)の未成熟な個体が多く採捕されました。これらは卓越年級群^{※1}と考えられ、今後脱皮を繰り返し、来年以降には漁獲可能な甲幅 90 mm 以上となることから、水揚量の増加が期待できます。8 月以降には、カニ籠を使った調査を実施し、より詳細に資源状況等を把握し、漁業者の皆さんにも情報提供する予定です。

※1 卓越年級群:ある年に生まれた子の数が、他の年に比べ特に多かった場合に、その年に生まれのものを卓越年級群という。



桁曳網調査で採集されたズワイガニ(測定後に放流)